

帯状疱疹ワクチン接種ご希望の患者様へ

当科でも帯状疱疹ワクチンの接種は行っております。ワクチンの種類は生ワクチン（弱毒化されているとはいえ感染性のあるウイルスの製剤）と不活化ワクチン（感染性のないワクチン）の2種類があります。詳細な問診の後に適否を判断し、**接種可能な場合はワクチンを取り寄せて後日接種となります。**予約の段階での電話等での問診や接種の可否に対する判断は行っておりませんので、あらかじめご了承ください。

なお、ワクチンの接種が不可な場合の例は以下の通りです。

生ワクチン

- ・50歳未満の方・妊娠中の方
 - ・3~6ヶ月以内に輸血またはガンマグロブリンの投与を受けた方
 - ・1ヶ月以内に生ワクチンを受けられた方、または1週間以内に不活化ワクチンを受けられた方
 - ・明らかに免疫機能に異常のある疾患有する者及び免疫抑制をきたす治療を受けている方
 - ・発熱等、接種当日に体調が悪い方
- また、明らかに免疫機能に異常のある疾患有する方及び免疫抑制をきたす治療を受けている方の例としては次のようになります。
- ・急性及び慢性白血病、リンパ腫、骨髄やリンパ系に影響を与えるその他の疾患をお持ちの方
 - ・HIV感染またはAIDSによる免疫抑制状態、細胞性免疫不全などの方
 - ・摘出手術または化学療法によって悪性腫瘍の増殖が抑制されていない方や、化学療法等で免疫抑制状態にある方
 - ・プレドニゾロン等の副腎皮質ステロイド剤や、シクロスボリン、タクロリムス、アザチオプリン等の免疫抑制剤、アダリムマブ等の一部の生物学的製剤や抗リウマチ薬を投与中の方

不活化ワクチン

- ・50歳未満の方
- ・明らかに熱がある方
- ・重篤な急性疾患有かっている方
- ・使用するワクチンに対して重篤なアレルギー反応（アナフィラキシー反応）のある方

なお不活化ワクチンの効果は非常に高いものの、かなりの方で注射部位の痛みや腫れといった局所の副反応や（8割程度）、発熱や頭痛、寒気、だるさ、筋肉痛といった全身性の副反応（6割以上）が出ます。また、こういった副反応が数日間続くことも珍しくありません。詳細は問診の際に医師にご相談ください。

診察時の問診の際に詳細をお伺い致しますが、他の疾患にて御加療中の方はあらかじめ当該疾患主治医に接種の適否についてご相談いただくとスムーズです。